

2

二文字本

June - July 2021

こな **本**

**読**んでみて

take free No. **89**

2

A large playing card, the 2 of Diamonds, with a white background. The number '2' and a diamond symbol are in the top-left and bottom-right corners. The text "二文字本" (Two-character book) is in blue at the top. Below it is a large red diamond symbol. The text "June - July 2021" is in green. Below that is "こな" in black and "本" in large black. Underneath is "読" in large black, followed by "んでみて" in black. At the bottom, "take free" is in blue and "No. 89" is in green. A small red diamond symbol is in the bottom-right corner.

目次	
二文字本	1
Book design の世界 vol.19	10
ちょこちょこ日記 #29	12

2



書

100 折学

# 二文字本

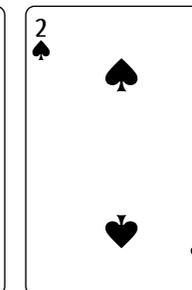
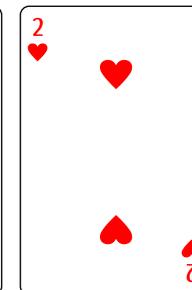
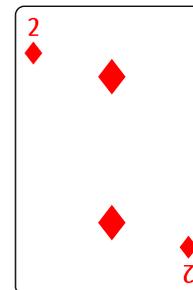
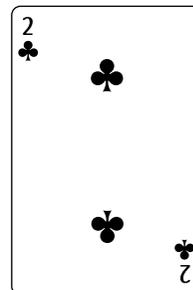
今回は、タイトルが二文字の本＝二文字本  
を特集します。

タイトルが同じ二文字でも、

作品によって受ける印象は様々です。

二文字のタイトルに込められた思いを

味わってみませんか。





## 『ひと』

著 者 / 小野寺史宜  
出版社 / 祥伝社  
出版年 / 2018年  
請求記号 / 913.6 || O 67

一人になった20歳の秋、途方に暮れていた柏木聖輔は一つ50円のコロッケをきっかけに商店街の総菜屋で働くことになる。自分を見てくれている人がいることの温かさを感じる作品。



## 『まち』

著 者 / 小野寺史宜  
出版社 / 祥伝社  
出版年 / 2019年  
請求記号 / 913.6 || O 67

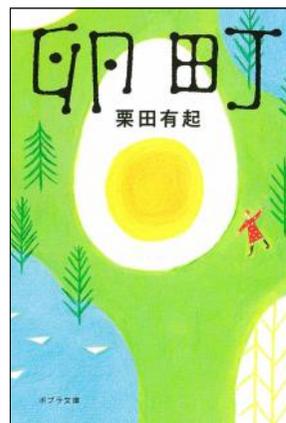
祖父と暮らした村から東京に出てきた江藤瞬一は、バイト仲間や同じアパートの人々とつながりができていく。『ひと』に出てくる場所がこの本にも登場し、作品のつながりも楽しめる。



## 『さぶ』

著 者 / 山本周五郎  
出版社 / 角川春樹事務所  
出版年 / 2010年  
請求記号 / 913.6 || Y 31

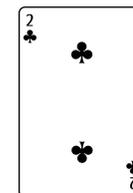
登場人物の名前がタイトルとなっている本書。江戸の下町で働く、器用な栄二とまっすぐなさぶは強い絆で結ばれていた。人が人を思う感情に胸を打たれる名作。



## 『卵町』

著 者 / 栗田有起  
出版社 / ポプラ社  
出版年 / 2014年  
請求記号 / 913.6 || Ku 67

亡くなった母の最後の願いを叶えるため、卵町を訪れたサナ。その町は卵のような楕円形で、静寂に包まれていた。不思議な町での出会いから、ある秘密にたどり着く。





## 『夜行』

著 者 / 森見登美彦  
出版社 / 小学館  
出版年 / 2016年  
請求記号 / 913.6 | Mo 54

京都で学生時代を過ごした私たちは、10年ぶりに集まり、旅先での体験を語り始める。「夜行」という連作の絵画をめぐる不思議な物語。「世界はつねに夜なのよ」



## 『色彩』

著 者 / 阿佐元明  
出版社 / 筑摩書房  
出版年 / 2019年  
請求記号 / 913.6 | A 81

プロボクサーの夢をあきらめた千秋の働く塗装屋へ新人が入ってきた。芸術の専門学校を卒業したという加賀君の初日から丁寧な仕事ぶりに驚かされる。



## 『億男』

著 者 / 川村元気  
出版社 / マガジンハウス  
出版年 / 2014年  
請求記号 / 913.6 | Ka 95

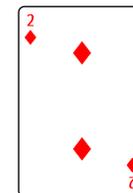
弟の借金を肩代わりし、朝から深夜まで働く一夫は、宝くじで3億円が当たる。友人を訪ねた後、友人と3億円が行方不明に。「お金と幸せの答えを、教えてください」

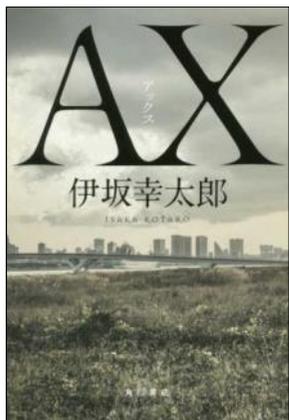


## 『何様』

著 者 / 朝井リョウ  
出版社 / 新潮社  
出版年 / 2016年  
請求記号 / 913.6 | A 83

大学生の就職活動をテーマにした直木賞受賞作『何者』のアナザーストーリー。高校時代の恋愛や社会人になってからの葛藤などを描いた6つの物語。





## 『AX』

著 者 / 伊坂幸太郎  
出版社 / KADOKAWA  
出版年 / 2017年  
請求記号 / 913.6 | I 68

殺し屋の兜には、妻と息子がいる。妻には頭が上がらない。こんな物騒な仕事をしていることをもちろん家族は知らない。  
『グラスホッパー』『マリアビートル』に連なる物語。



## 『未来』

著 者 / 湊かなえ  
出版社 / 双葉社  
出版年 / 2018年  
請求記号 / 913.6 | Mi 39

10歳の章子あてに、未来の自分から手紙が届く。その夜から、大人の章子へ返事を書き始める。そこにはつらい出来事がつづられていた。



## 『教場』

著 者 / 長岡弘樹  
出版社 / 小学館  
出版年 / 2013年  
請求記号 / 913.6 | N 18

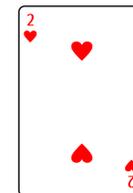
警察学校を舞台にした物語。第九十八期の生徒たちは、風間教官の厳しい指導のもと成長していく。教官の鋭い視線に緊張感が張りつめる。「きみにはここを辞めてもらう」

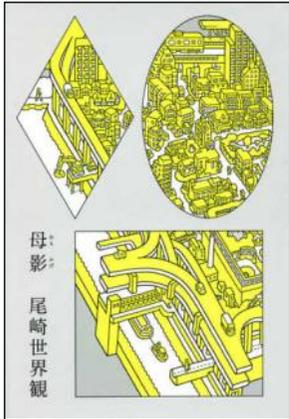


## 『帰還』

著 者 / 堂場瞬一  
出版社 / 文藝春秋  
出版年 / 2019年  
請求記号 / 913.6 | D 89

四日市を舞台にしたミステリー。新聞記者の藤岡が撮影中に水路に転落して死亡した。藤岡の同期3人が真実を突き止めるため奔走する。





## 『母影』

著者 / 尾崎世界観  
出版社 / 新潮社  
出版年 / 2021年  
請求記号 / 913.6 | O 96

少女は母親の勤めるマッサージ店のカーテンを見ている。ときどきカーテンに母の影が映るのだ。子どもの頃の感情が淡くよみがえる作品。



## 『舞台』

著者 / 西加奈子  
出版社 / 講談社  
出版年 / 2014年  
請求記号 / 913.6 | N 81

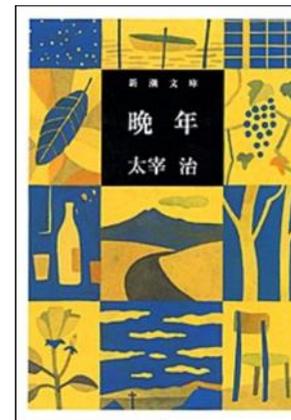
ニューヨークを旅する陽太には、セントラル・パークで寝転がって本を読みたいという願望があった。楽しみにしていたある作家の新作を読もうとしたその時…。



## 『人間』

著者 / 又吉直樹  
出版社 / 毎日新聞出版  
出版年 / 2019年  
請求記号 / 913.6 | Ma 71

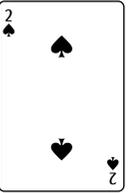
38歳の誕生日に永山が受け取った一通のメールから、美術系の学生が集うハウスでの日々がよみがえる。「自分も含めて僕たちは人間をやるのが下手なのではないか」



## 『晩年』

著者 / 太宰治  
出版社 / 新潮社  
出版年 / 2005年 (改版)  
請求記号 / 913.6 | D 49

太宰治の初めての作品集に付けられたタイトルは『晩年』。自分の一生を書き残したいという思いで書かれた作品15篇が収められている。



# Book design

## の世界

vol.19

岡本 歌織 さん  
(next door design)

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

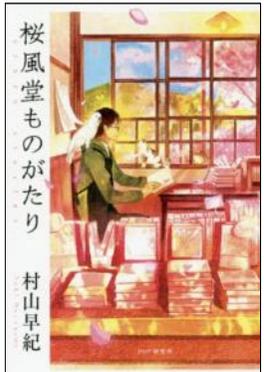
第19回目は、岡本歌織さんのブックデザインをご紹介します。

今回は、デザイン事務所 next door designの岡本歌織さんが手がけられたブックデザインをご紹介します。4ページで紹介した『夜行』（森見登美彦著／小学館／2016年）も岡本さんによるデザインです。



装幀：岡本歌織 (next door design)  
装画：禅之助

一冊目は、2018年本屋大賞受賞作『かがみの孤城』（辻村深月著／ポプラ社／2017年／913.6||Ts 44）です。オオカミのお面をした女の子と目が合っているようで、惹きつけられる装画です。箔押し of the タイトルが本の世界観を引き立てています。見返しや扉、目次にも注目です。



装丁：岡本歌織 (next door design)  
装画：げみ

次は、『桜風堂ものがたり』（村山早紀著／PHP研究所／2016年／913.6||Mu 62）は、書店を舞台にした作品です。書店に流れる空気が伝わってくるような装丁です。著者の村山早紀さんは、あとがきの中で「美しい絵を生かして見事なデザインをしてくださった、next door designの岡本歌織さん。いつも宝石箱のような本をありがとうございます。またひとつ宝物となる本が増えました。」と書かれています。



装幀：岡本歌織 (next door design)  
装画・イラスト：嶽まいこ

『白野真澄はしょうがない』（奥田亜希子著／東京創元社／2020年／913.6||O 54）は、同姓同名の白野真澄、5人それぞれの物語です。使われている紙や装画の印象が合わさって、装丁からやさしさが伝わってきます。



装画：雪下まゆ  
装丁：岡本歌織 (next door design)

今回は5冊の岡本香織さんの装丁作品をご紹介します。一つ一つの装丁から本の魅力が伝わってきて、装丁の力を感じました。

『女神のサラダ』（瀧羽麻子著／光文社／2020年／913.6||Ta 73）は、全国各地の農業に関わる女性が登場する短編集です。装画に描かれた野菜がみずみずしくてとてもおいしそうに感じます。タイトルの文字の中にも野菜が使われていてかわいいです。



装画：三好愛  
装幀：岡本歌織 (next door design)

最後に、『愛されなくても別に』（武田綾乃著／講談社／2020年／913.6||Ta 59）をご紹介します。装画や見返しに使われた黄色が差し色となって効いています。主人公の大学生が暮らす部屋をイメージさせる装画には、想像力を掻き立てられます。



## ちょこちょこ日記 #29 「スピンオフ」

本やマンガ、映画やドラマなどの作品で「スピンオフ」という言葉を聞くことがあります。

『広辞苑 第七版』(新村出編/岩波書店)によると、「ある作品の登場人物を転用して別作品を作ること。その作品。」とあります。好きな作品の登場人物にまた会える、世界感に浸れる、と思うととても嬉しい気持ちになります。

図書館で所蔵しているスピンオフ作品の中で今回おすすめしたいのが、『祝祭と予感』(恩田陸著/幻冬舎/2019年/913.6||065)です。

元となった作品は『蜜蜂と遠雷』(恩田陸著/幻冬舎/2016年/913.6||065)です。直木賞・本屋大賞受賞作で、2019年には映画化もされています。

そんな大人気作品のスピンオフ作品が『祝祭と予感』です。登場人物の出会い、楽曲に込められた思い、など本編では描かれなかった6つのストーリー。そんな背景があったんだと感動を覚えます。『祝祭と予感』を読むと、また『蜜蜂と遠雷』を読み返したくなります。ぜひ2冊合わせて楽しんでもらえたらと思います。

## こんな本読んでみて No.89

2021年6月1日 発行

編集・発行 三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

<http://www.library.tsu-cc.ac.jp/>